

# 油山の宝物さがし ～ 森会フィールドの昔 ～

カブトムシの森・アカマツ林での作業時、ハイキングやレクリエーションで市民の森を歩く時、「油山が薪炭や用材採取に利用されていた頃は具体的に、どこで・誰が・どんなに利用して・どんな姿だったのか、過去にタイムトリップして見てみたいね～」と話題になることがあります。

11年5月号にて油山の国有林でアカマツの材を出した頃の話をしてくださった日下部正朝さん（昭和10年生）に市民の森になる以前の油山の姿を歩きながら語っていただきました。厚くお礼申し上げます。市民の森協会にご協力いただきました。

とき 2011年4月14日 9時～11時

話し手 日下部正朝氏

聞き手 岩尾襄 柴戸慶子（記録）

ところ カブトムシの森、アカマツ林など

## ■ カブトムシの森の昔

油山の国有林での作業は山師の手嶋茂男さんがしきっておられました。私は家の農作業のかたわら声がかかった時に伐採作業などしておりました。

カブトムシの森は市有林なので市民の森にはいるまで作業をしたことはありませんが杉、檜、雑木がはえていました。炭焼きがまがありますが誰がどのように使っていたかは残念ながら見る機会はありませんでした。センターから牧場までの林道は当時カブ森入口が終点でした。



<昔の林道終点。岩尾さんと日下部さん>

## ■ カブトムシの森周囲の国有林

森の西側にある小川の向こう一帯は国有林です。国有林で大きな材を伐採する時、山師さんが専門の伐り方さんを東北から呼び寄せていました。この人たちは西畑の民家を借りて住みました。材搬出には浮羽の馬方さんが林道終点までトラックに馬をのせて来ました。作業の間中はC地区のあずまやから階段をおりた小川向こうに小屋かけをし川沿いに馬2頭、少し上に人の小屋を作り住みこみました。

伐採後の植林は地元の人が植樹の適期で農閑期でもある2,3月に日雇いで来ていました。



<道標の向こうに小屋掛け。小川で夕飯の米を研ぐころ大きなツガニが出てきていた>

## ■ 国有林での炭焼き

国有林では営林署に入札し炭焼きが行われていました。カブ森そばの水の森、油山山頂直下など炭焼きがまあとは今も見るすることができます。

炭焼きをするときは入札した場所を皆伐しました。山頂ではあたり一帯を伐り炭焼き窯まで斜面を転がせて運びました。今山頂では樹木が視界を遮っていますが当時は早良方面が見事に見えていました。

炭焼きの材は皆伐したいろんな種類の木と一緒にいれて焼いていました。カシ、クヌギ、ツバキがよい材が一番奥の煙突の下に入れていました。長いカシの炭等大切にされ、炭は貴重な現金収入源でした。

焼き上がったら種類別に『だつ』という俵のようなものに入れて山頂からトラックの入る林道まで担いで降りました。『だつ』はカヤでつくるもので雨降りや夜なべにおばあさんが編んでいました。



<林道沿いの炭焼きがま。市有地に位置する。昔使われていたものを作業員さん方が復元されました>

#### ■ 見なかった薪ひろい

油山の国有林、市有林に周囲の集落の人が薪をとりに来るのは見たことはありませんでした。自宅は炊事は薪でしたがそれは近くの山持ちが伐採するときに取らせてもらい、かわりに植えつけの時手伝いに行きました。自家用の薪を油山の上のほうまで取りに来て担いで持って帰るのは大変なので皆自宅近くでたきものにできるものを使ったのではないのでしょうか。

#### ■ 屋根・火事・カヤ

油山では時に火事がありました。炭焼きをしている最中に火を覆っている赤土が落ちると小屋掛けの屋根、周囲の木に燃え移るので注意を払いました。

昭和3年に西畑で大火事があったと伝え聞いています。私の代になって自宅は瓦屋根にしましたが昔は藁屋根が多く、飛び火がよくあったのです。藁屋根は数年に一度ふき替えを専門業者に頼みましたが、補助で藁を運んだり近所で助け合っていました。

西畑にはカヤ場があり権利がありました。油山の牧場は国有林だった場所を市が買って木などを伐つてできたものです。たまたま今カヤがはえて牧草が

育ちきらないというところがありますが昔からカヤ場として利用したというのではないように思います。

#### ■ 油山のアカマツ林

つり橋より上のアカマツ林でよく作業をしました。「アカマツ展望台」のあたりではマツタケが出ていました。マツタケをとる権利の入札などは自分のころはなく見つけたら取っていました。市民の森になってからは取る人が多いのか見ません。落ち葉の入札もなく、油山国有林の収入は伐りだした材の販売、炭焼きの権利の入札だったと思います。

松くい虫は昔からあることはありました。白アリ駆除などもする専門業者が来て樹幹注入をして松くい虫を防いでいるようです。松枯れしたアカマツの伐採などの処理は福岡市森林組合が来ています。

#### ■ 森の境界

森を育てる会で作業をしているセンター裏のアカマツ林は国有林で民地に接しています。境は尾根。国有林と民有林（公有地、私有地など国有林以外の土地の総称）の境にはこのように土塚（どうづか）がある場合もあります。

土塚の中には崩れたり腐ったりしないよう木炭がはいっています。昔は木にペンキを塗ったものを建てていましたが今は丹頂杭がたててあります。先日森林管理署の職員の方が来て建てていられました。

昔は油山周囲の各集落に森林管理署との連絡をする係が住民にいましたが今はいないところが多いようです。



<センターそばのアカマツ林の真ん中あたりにある土塚> 以上